

株主の皆さまへのご報告

第68期 中間期

2017年4月1日～
2017年9月30日

サトーグループをより良くご理解いただくために――



サトーホールディングス株式会社
www.sato.co.jp 証券コード：6287



あくなき創造で持続可能な社会を

トップメッセージ

平素より格別のご高配賜り、厚く御礼申し上げます。

当中間期の連結業績は全体としてほぼ計画通りに進捗し、売上高548億円(前年同期比107.3%)、営業利益25億円(同96.4%)、経常利益23億円(同99.6%)、親会社株主に帰属する四半期純利益24億円(同160.1%)となりました。

新中期経営計画の初年度である今期に過去最高益を目指すコア事業(自動認識ソリューション事業)は、前年・計画を大きく上回った日本事業の牽引と、底打ちから回復基調へと転換した海外事業によって、順調なスタートを切ることができました。一方、今期より本格的に取り組む「素材事業」は新技術の開発・事業化に向けた研究開発が当初計画通りに進捗しています。



サトーホールディングス株式会社
代表取締役社長兼 CEO

松山 一雄

サトーホールディングス株式会社
代表取締役副社長兼 COO

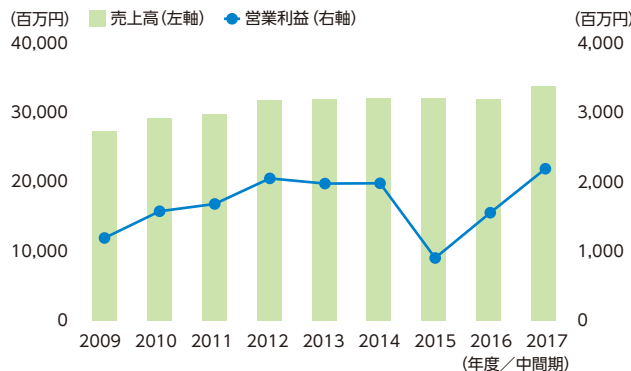
小龍 龍太郎

自動認識ソリューション事業(日本)

人手不足が顕在化する日本では、働き方改革による経営の最適化が大きな課題となり、製造・物流・小売・Eコマースを中心に全ての市場で自動化・省力化ニーズが高まっております。これを背景に日本事業は第1・第2四半期連続で過去最高売上を更新し、前年・計画に対して大幅な増収増益を達成致しました。

また直近では、RFID(ICタグ)や協働型ロボットを活用した、より高度なソリューション商談も急増してまいりました。日本の産業・社会構造の変革が進む中、当社はお客さまの価値の向上のため「モノ売りからコト売り」へ事業モデルの転換を進めております。この取り組みにおいて、産業用プリンタ戦略モデルのCLNXシリーズの販売台数を前年比で+67%と大きく伸ばしただけでなく、新たなサプライ提案や保守サポート、ソフトウェアを組み合わせ

自動認識ソリューション事業(日本)

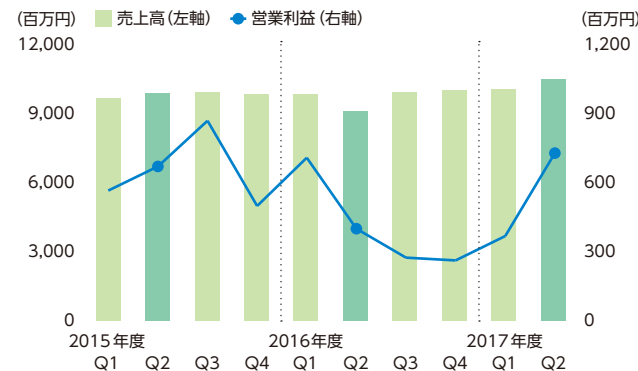


たソリューション事業を拡大し利益率を大きく向上させることができました。今後さらに高度化・複雑化するお客さまの現場課題を解決する提案力を強化し、安定的な事業の成長を目指してまいります。

自動認識ソリューション事業(海外)

海外事業は、前年度から取り組んできたベースビジネス強化の成果が第2四半期に顕著となり、前年比で+82%の営業利益増を達成することができました。一方、欧州およびロシアのOkil社においては、為替影響や営業・製造強化のためのコスト増により減益となりましたが、下期より営業・価格・製造・販管費の抜本的な見直しを行い収益力の改善を目指してまいります。また、低収益が続く一部の海外拠点に対する包括的支援の実行をミッションとする海外事業管理チームを9月に新設致しました。為替リスクに対する専門的な知見の提供や個別モニ

自動認識ソリューション事業(海外)



タリングの強化などにより収益力の改善を図ってまいります。

素材事業

2017年1月に完全子会社化した英国DataLase社の持つ「インライン・デジタル・プリンティング (IDP)」技術および、当社の独自技術であるCO₂削減剤の「エコナノ®」を軸として今期より本格的に取り組む素材事業は、新中期経営計画に基づき新技術の開発・事業化に向けた研究開発を進めるとともに、DataLase社買収に伴うのれん償却費を計画通り計上しました。他社との技術面でのパートナーシップ推進や当社グループ会社とのシナジー効果創出に向けた具体的な取り組みも既に開始しております。なお当事業の推進を加速するため、この10月に、関連技術および事業開発経験を有する人材を最高技術イノベーション責任者 (CTIO) として

採用致しました。2019年度黒字化、2020年度からの利益貢献を目指してまいります。

配当金

5円増配し65円 (当中間期32円、期末33円) とする予定です。当社は企業理念の一つである「四者還元」にのっとり、安定的かつ継続的に増配することを株主還元方針の基本とし、資本生産性を高め、株主価値の向上を目指しています。

下期以降も、引き続き中期経営計画の施策を速やかに実行に移し、通期業績計画の達成に向け全社を挙げてまい進してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、末永くご支援賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

2017年度中間期の業績

売上高

54,823 百万円 前年同期比 107.3%

営業利益

2,556 百万円 前年同期比 96.4%

経常利益

2,369 百万円 前年同期比 99.6%

親会社株主に帰属する四半期純利益

2,413 百万円 前年同期比 160.1%

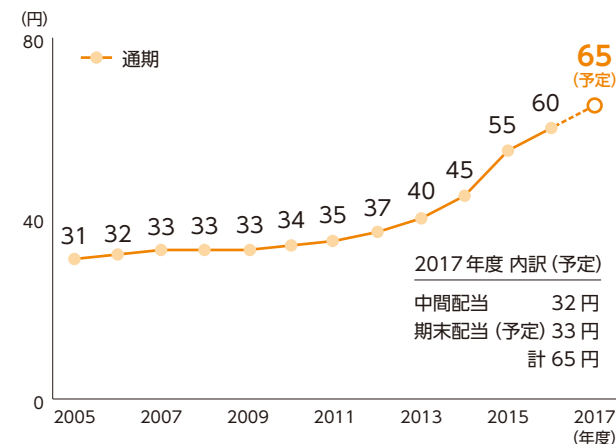
素材事業を担うDataLase社の新たな顧客価値創造に向けて



上記ラベルは同展で展示された、画期的なインライン・デジタル・プリンティング (IDP) を使用し印刷したものです。

2017年9月11日から15日までドイツで開催された飲料・液状食品を包括する最新技術・製品が勢ぞろいする世界最大規模の展示会「drinktec」に、飲料用包装機器・サービスを提供しているSidel社は、缶やガラスなどに直接プリントできる高速レーザーを展示しました。この機械は、DataLase社の画期的なインライン・デジタル・プリンティング (IDP) を使用しています。本年度は、過去最高の来場者 (76,000人以上) が訪れ、大盛況で幕を閉じました。

配当金の推移



特集

自動認識ソリューションの価値の進化・深化に

サトーグループは、バーコード、2次元コード、ICタグなどを利用した自動認識ソリューションをお客さまに提供しています。例えば、スーパーやコンビニで目にするサンドイッチなどの食品ですが、商品のみでは情報が紐づいていないので、どのような原材料が使用されているのか分かりません。その商品に食品内容表示ラベルを貼ることで、原材料、製造年月日、賞味期限など消費者が知りたいと思う情報が分かるようになります。つまり、サトーグループは、「食品(モノ)」だけでは分からないことを「食品内容表示ラベル(情報)」を貼る(つなぐ)ことで、「モノ」と「情報」の間にある最後の距離をつないでいるのです。高度化・複雑化していくお客さまニーズに対応していくため、従来の自動認識ソリューションの枠を超えた(プラスワン)イノベーションへ挑戦し続け、お客さまの現場で人・モノ・情報の「最後の1cm[®]」を効果的につなぎ、「正確・省力・省資源・安心・環境・感動」という価値を創出しています。



サトーグループの
ソリューション

既存の
ビジネスモデル

DCS & Labeling + **One**
(プラスワン)

音声認識、画像認識

ウェアラブル

マーケティングリサーチ

ソフトウェア

ロボット

etc.

プリンタ、リーダー、ソフトウェア、サプライを組み合わせたシステムを構築し、導入後の保守サポートまで総合的なソリューションを提供することを DCS (Data Collection Systems) & Labeling と呼びサトーグループのコア事業としています。このビジネスモデルに新しい「何か」を掛け合わせお客さまにプラスワンの付加価値を提供するオープン・イノベーションの取り組みを進めています。

向けて

国内初!

患者さん、医療スタッフ双方の負担軽減を目指す三重大学病院とUHF帯ICタグ活用の臨床実験を実施!

国立大学法人三重大学病院では、患者さんへの投薬、輸血をする際に患者さんのID、注射・輸血ラベル、実施指示書のそれぞれのバーコードを読み取り照合することで、患者さんの取り違えを防止していました。今回実運用を見据え、サトーヘルスケア株式会社と同病院は、非接触でデータの読み取りができるUHF帯ICタグによる照合を国内で初めて実施するとともに電波がペースメーカーなどの医療機器に影響しないことを確認する実地検証を進めています。

ICタグとは?

電波により非接触で情報をやり取りする自動認識技術です。

UHF帯の利用は国内初!!

HF帯との比較

UHF帯 従来のHF帯よりも遠い情報を非接触で読み取ることができる。

HF帯 非接触で読み取ることができるが、通信距離が短く、ICタグに読み取り機を近づける必要がある。

自動認識
シヨンの一例

注射や輸血ラベル、患者さんのIDなどのバーコードを一つ一つ読み取る必要がある



こんな悩みを解決!



患者さんのID(リストバンド)のバーコードがねじれたり、布団に隠れてしまうことで、情報の読み取りに時間がかかり、患者さんを起こしてしまうことがある

— ICタグ導入後のメリット・効果 —

患者さんを起こさない

布団の上からでも認識するので患者さんを起こしてしまうことがなくなった。



照合時間が短縮

患者さんから採取した血液などの検体にもICタグを活用することで、検体を一括で照合できるようになった。



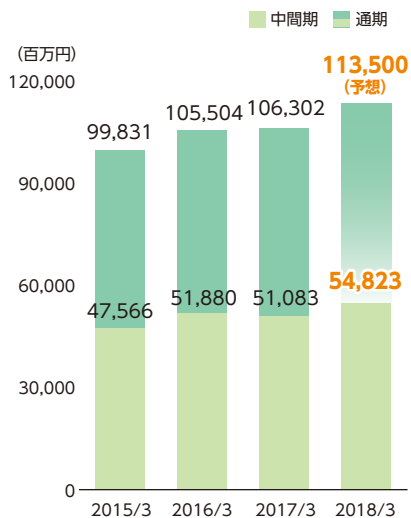
労働量の削減・コミュニケーションの増加

他の仕事をする余裕が生まれた。業務の合間の時間が増えて患者さんとのコミュニケーションに時間がとれるようになった。

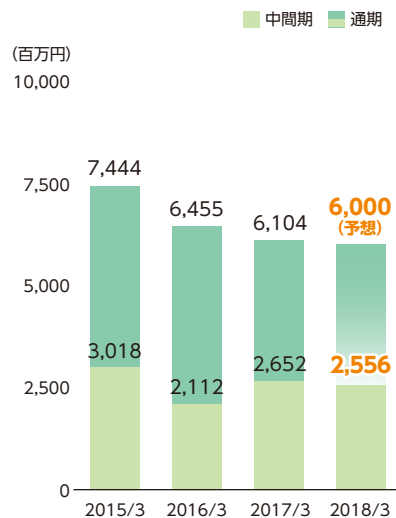


財務ハイライト

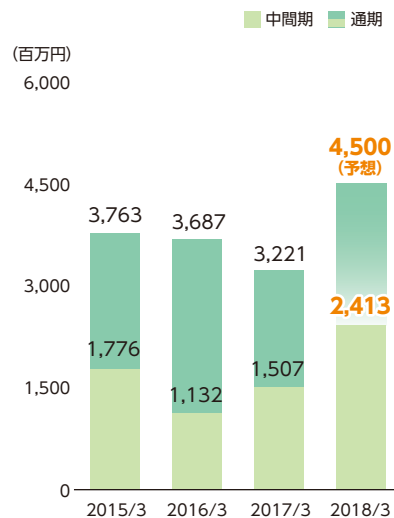
売上高



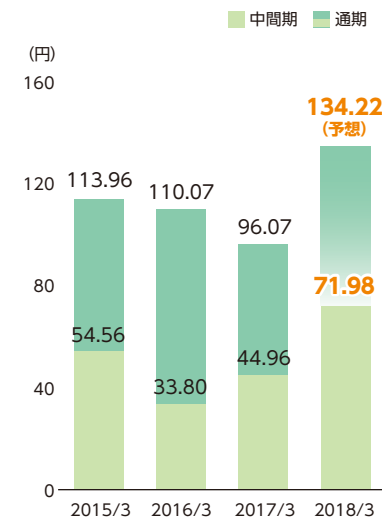
営業利益



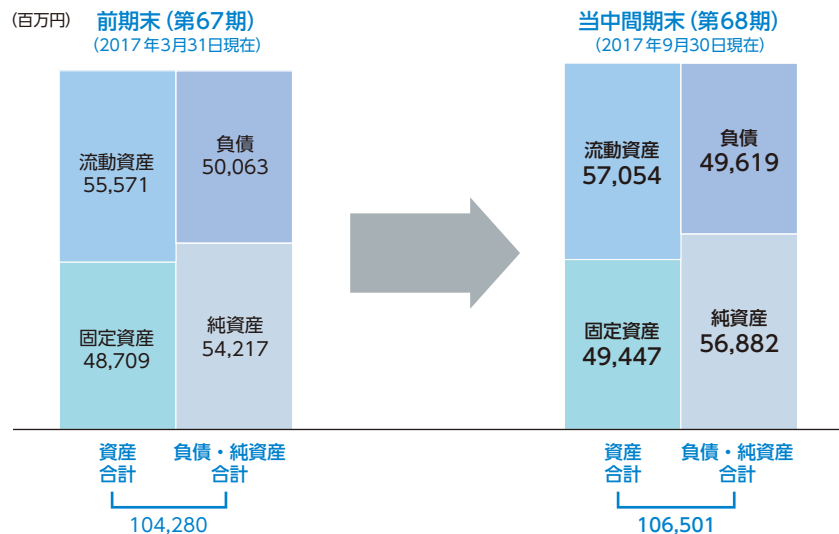
親会社株主に帰属する当期純利益



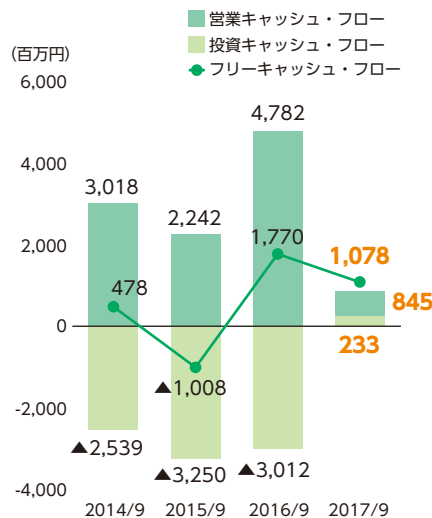
1株当たり当期純利益



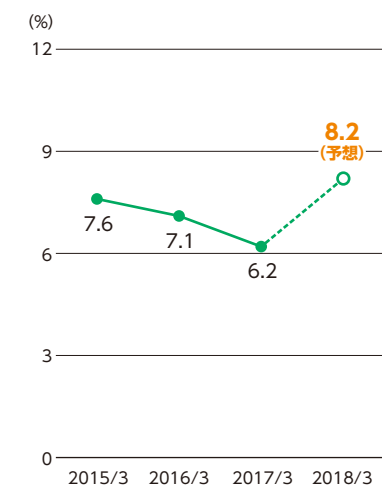
中間連結貸借対照表の概要



中間キャッシュ・フロー



ROE (自己資本当期純利益率)



* 連結子会社における会計基準の変更があったため、過年度の決算数値を遡及修正しております。

会社情報・株式情報 (2017年9月30日現在)

会社情報

商号 サトーホールディングス株式会社
SATO HOLDINGS CORPORATION

本社所在地 〒153-0064 東京都目黒区下目黒一丁目7番1号

創業 1940年(昭和15年)

設立 1951年(昭和26年)

資本金 8,468百万円

決算期 3月31日

連結従業員数 5,141名

連結売上高 548億円(2018年3月期第2四半期)
(ご参考) 1,063億円(2017年3月期)

役員 (2017年11月1日現在)

取締役		執行役員	
代表取締役 社長兼CEO	松山 一雄	専務執行役員	山田 圭助
代表取締役 副社長兼COO	小瀧 龍太郎	専務執行役員	櫛田 晃裕
取締役	西田 浩一	常務執行役員	宇敷 謙二
取締役	土橋 郁夫	常務執行役員	デフニ テイ
取締役	鳴海 達夫	常務執行役員	笹原 美徳
取締役	鳴海 達夫	執行役員	渡邊 信夫
社外取締役	鈴木 賢	執行役員	小瀧 智奈美
社外取締役	田中 優子	執行役員	熊林 知之
社外取締役	伊藤 良二	執行役員	千田 浩三
社外取締役	嶋口 充輝	執行役員	マリア オルセス
社外取締役	山田 秀雄	執行役員	小沼 宏行
社外取締役	松田 千恵子	執行役員	田邊 康宏
		執行役員	阿部 陽一
		執行役員	大西 裕紀
		執行役員	江上 茂樹
		執行役員	山田 倫靖
		執行役員	弓場 吾朗

監査役

常勤監査役 横井 信宏 社外監査役 山口 隆央
常勤監査役 永倉 淳一 社外監査役 八尾 紀子

株式情報

発行可能株式総数 80,000,000株
発行済株式の総数 34,921,242株
株主総数 8,532名

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 毎年3月31日

配当金受領
株主確定日 期末配当 毎年3月31日
(中間配当を行う場合は、毎年9月30日)

1単元の株式数 100株

株主名簿管理人
特別口座の
口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711 (通話料無料)
※受付時間：土・日・祝祭日等を除く
平日9:00～17:00

同郵送先 〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

上場取引所 東京証券取引所市場第一部
(証券コード：6287)

公告方法 電子公告
<http://www.sato.co.jp/ir/denshikokoku.html>
※ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載致します。

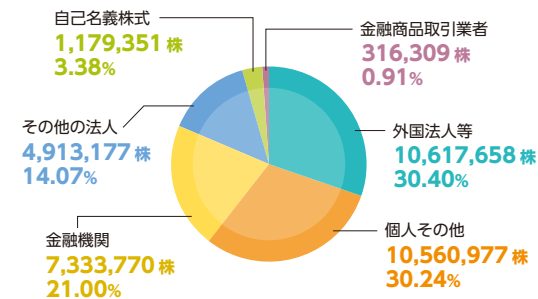
(ご注意)

- 住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。お取引されている証券会社等にお問い合わせください。
- 【特別口座】に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行(株)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取り次ぎ致します。
- 未受領の配当金の支払請求につきましては、株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行(株)にお申し出ください。

大株主

株主名	持株数(百株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	41,716	11.94
公益財団法人佐藤陽国際奨学財団	37,862	10.84
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	14,541	4.16
サトー社員持株会	12,435	3.56
サトーホールディングス株式会社	11,793	3.37
GOLDMAN, SACHS & CO. REG	10,567	3.02
GOVERNMENT OF NORWAY	9,615	2.75
横井 美恵子	9,051	2.59
佐藤 静江	8,974	2.56
株式会社アリーナ	8,544	2.44

所有株数別株式分布



統合報告書のご案内

2017年の統合報告書を発行致しました。ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



http://www.sato.co.jp/ir/library/annual_report.html

サトーグループは、経営戦略の一環として ダイバーシティに取り組んでいます



2013年、サトーグループは、経済産業省主催「ダイバーシティ経営企業100選」に選ばれました。



サトーグループの目指すダイバーシティは、社員全員が企業理念という共通の価値観・行動規範の下、社員一人一人が個性を発揮し、それが経営上の強みとなることです。全員が参画意識を持ち、現場発で継続的にさまざまなアクションを起こし、多様性を企業の文化や風土として根付かせることで、グローバルで戦える革新的なアイデアの創出につなげていきます。近年の取り組みの中から2つの事例を紹介致します。

執行役員 最高人財責任者(CHRO) 江上 茂樹

TOPIC
No.1

男性管理職が時短勤務を試行

2015年10月に当社代表取締役社長兼CEOの松山が、内閣府「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」に賛同したことを契機に、ハードウェアの開発を担うグループ会社・サトーテクノロジー株式会社では、男性管理職から成る「男性リーダーの会」を発足しました。女性活躍の促進のために実施した、女性社員の「傾聴会」で出た意見を基に、仕事と家庭の両立に奮闘する女性の大変さを身をもって経験すべく管理職の男性15名が1日6時間の時短勤務を試行しました。



女性社員の活躍を推進するための傾聴会

時短勤務トライアル
を実施した

社員の声



6時間では仕事が終わらず、家で仕事をしようにも家事や育児を思うように時間も取れず、また体力も足りなくなることを知り、残業ありきの働き方を見直す必要性を痛感しました。時短で業務を終えるためには、スピーディな情報共有、仕事の優先順位の明確化、部下への権限委譲が必要不可欠であることなど、課題が見えたことは一つの成果です。今後も時短勤務トライアルの体験者を増やし、会社全体で効果や課題を洗い出し、時間管理意識を高め、子育てや家族の介護を必要とする社員も活躍できる環境づくりを進めてまいります。

サトーテクノロジー株式会社 設計開発統括 福澤 修

TOPIC
No.2

エジプトのカイロ大学から インターンの受け入れを実施

当社では、2016年度より、エジプトの国立総合大学カイロ大学の学生に対し、本社(東京都目黒区)にて1年間のインターンシップを実施しています。本年度は2名の学生を受け入れています。

社員がインターンシップの学生と交流することで、お互いの文化の違いや考え方を学び、視野を広げていく良い機会としていきます。



カイロ大学からのインターン生